

## NEWS RELEASE

2024年5月22日

### 2024年度「新入社員の意識」調査

#### 調査結果のポイント

- 会社選びで最も重視したことのトップは「仕事の内容」。
- 考えていた職場と違ったら「何かあればわかる」が28.2%。
- 理想の上司、男性は「仕事の指導」を、女性は「誠実で責任感が強い」「包容力」等人柄を重視。
- 望ましい昇給パターンは、2年連続で「成果主義」が「年功主義」を上回り、過去最高。
- 「結婚したくない」女性は3年連続で増加し過去最高、初めて1割を超えた。
- 3割超の女性が子どもは「ほしくない」と回答、4年連続で増加し過去最高。

#### 調査要領

1. 調査目的 2024年度新入社員の意識動向の把握
2. 調査対象 当社主催「じゅうろく新入社員セミナー」を受講した、岐阜・愛知両県内企業・事業所の新入社員
3. 調査時期 2024年4月
4. 調査方法 無記名式アンケート
5. 有効回答者数 411名（内訳は下表のとおり）

最終学歴	男 性		女 性		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学以上	155	66.0%	111	65.7%	271	65.9%
短大・高専	4	1.7%	5	3.0%	9	2.2%
専門学校	23	9.8%	22	13.0%	46	11.2%
中・高校	53	22.6%	31	18.3%	85	20.7%
合計	235	100.0%	169	100.0%	411	100.0%

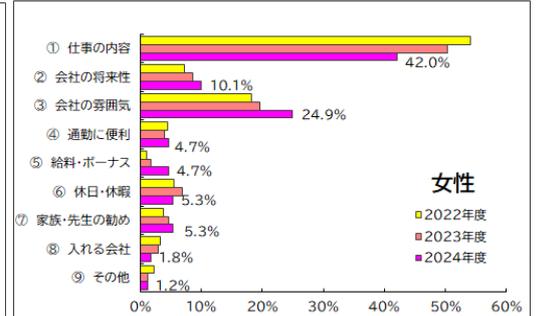
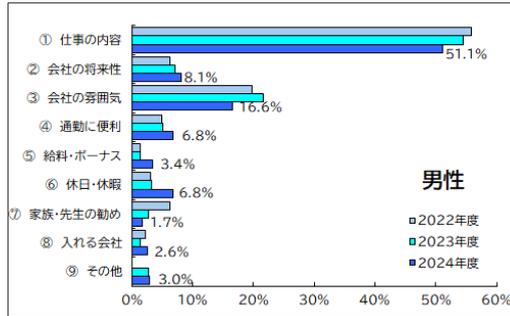
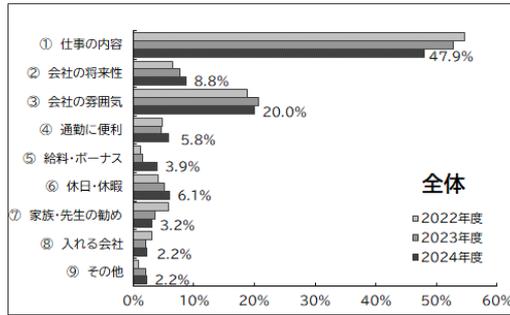
(注) 無回答等により合計が合致しない場合がある。本文中の図表の計数は、単位未満を四捨五入している関係で、内訳の合計等が合致しない場合がある。

ご照会先  
十六総合研究所 リサーチ部  
研究員 萩原 綾子  
岐阜市神田町 7-12  
TEL:080-4333-0755

# 1. 今の会社を選ぶ際に最も重視したこと

(選択肢)

- ① 仕事の内容に興味があり、自分の能力を活かせると思うから
- ② 会社に将来性がありそうだから
- ③ 経営者の人柄、職場の雰囲気などが良いから
- ④ 通勤に便利なおところにあるから
- ⑤ 給料、ボーナスが良いから
- ⑥ 休日、休暇が多いから
- ⑦ 家族や親戚、学校の先生に勧められたから
- ⑧ 希望する会社ではないが、入れる会社だったから
- ⑨ その他



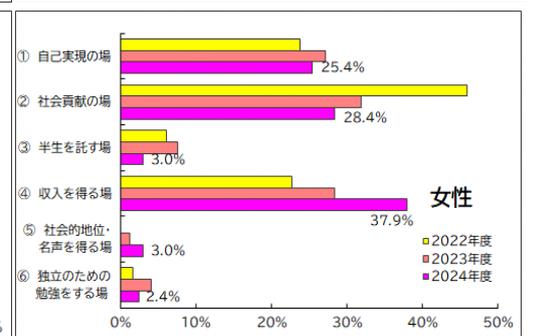
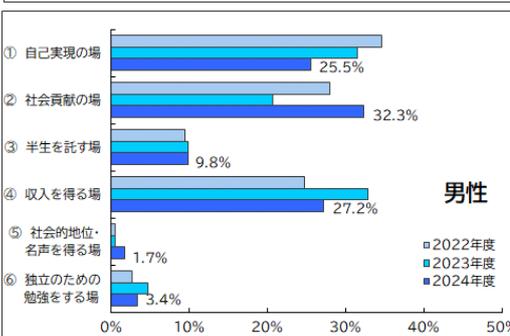
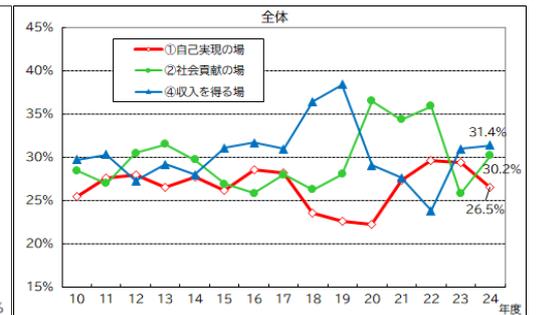
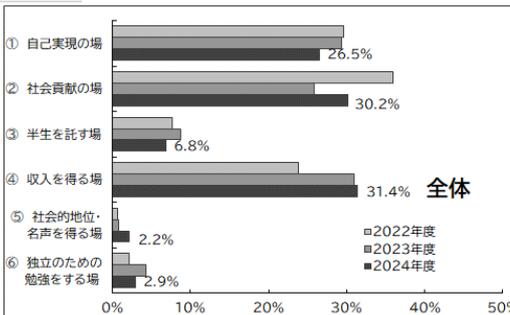
## 「仕事の内容」がトップ

会社を選ぶ際に最も重視したことは、「①仕事の内容」が47.9%（前年比4.8%増）でトップ、2位は「③会社の雰囲気」で20.0%（同0.7%増）、3位は「②会社の将来性」で8.8%（同1.1%増）であった。「①仕事の内容」と回答した割合は男性51.1%、女性42.0%と男性の方が高く、「③会社の雰囲気」と回答した割合は男性16.6%、女性24.9%と女性の方が高かった。また、「④通勤に便利（5.8%）」（同1.2%増）、「⑤給料・ボーナス（3.9%）」（同2.4%増）、「⑥休日・休暇（6.1%）」（同1.0%増）といった待遇や通勤の利便性を重視する割合がわずかではあるが前年よりも増加した。

# 2. 会社とはどんなところか

(選択肢)

- ① 自己の個性や能力を活かし伸ばすところ
- ② 社会に役立つことを実践するところ
- ③ 自分の半生を託すところ
- ④ 収入を得るところ
- ⑤ 社会的地位や名声を得るところ
- ⑥ 将来何らかの形で独立したいので、その勉強をするところ



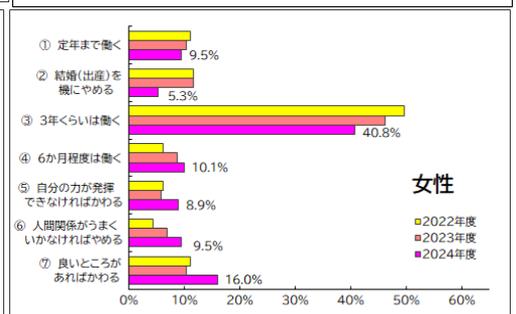
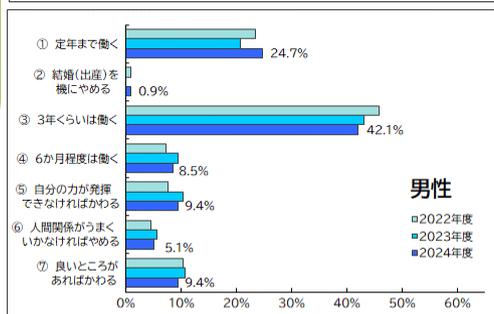
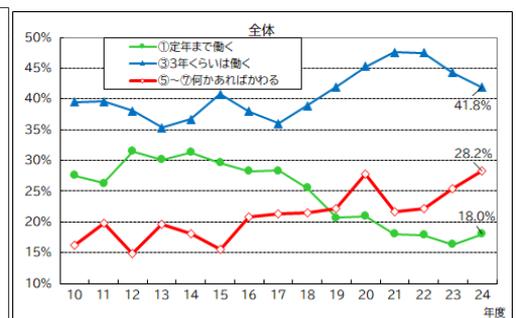
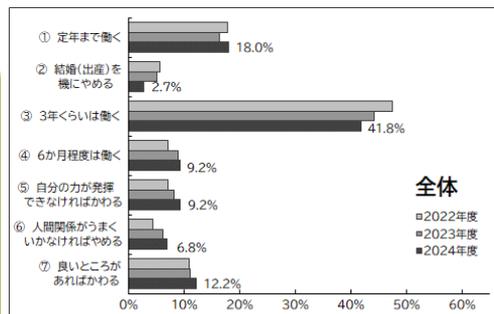
## 「収入を得る場」と「社会貢献の場」が拮抗

会社とはどのようなところかという問いでは、「④収入を得る場」が31.4%（前年比0.5%増）でトップ、次いで「②社会貢献の場」が30.2%（同4.4%増）、「①自己実現の場」が26.5%（同2.9%減）となった。「④収入を得る場」と回答した割合は男性27.2%に対して女性37.9%と女性の方が高かった。また、「②社会貢献の場」と回答した割合はこれまで男性よりも女性の方が高かったが、今回は男性32.3%、女性28.4%と初めて男性が女性を上回った。

## 3. 考えていた職場と違っていたらどうするか

### （選択肢）

- ① 入社した以上、定年まで続けて働く
- ② 結婚(出産)を機会に会社をやめる
- ③ 3年くらいは一所懸命働く
- ④ 6ヶ月程度様子をみてから決める
- ⑤ 自分の力が発揮できなければ会社をかわる
- ⑥ 人間関係がうまくいかなければやめる
- ⑦ 良いところがあれば、そちらにかわる



## 「3年くらいは働く」が最多

今の会社があなたの考えていた職場と違ったらどうするかという問いでは、「③3年くらいは働く」が41.8%（前年比2.4%減）でトップ、次いで「①定年まで働く」が18.0%（同1.6%増）、「⑦良いところがあればかわる」が12.2%（同1.2%増）であった。

「⑤自分の力が発揮できなければかわる」「⑥人間関係がうまくいかなければやめる」「⑦良いところがあれば、そちらにかわる」の3つを合わせた「何かあればかわる」は全体の28.2%を占めており、近年増加傾向にある。また、「何かあればかわる」と回答した割合を男女別にみると、男性23.9%、女性34.4%と女性の方が高かった。一方、「①定年まで働く」は男性24.7%、女性9.5%と男性の方が高かった。全体として転職等への心理的なハードルは以前よりも下がってきており、男性よりも女性の方がより柔軟な考えを持っているようだ。

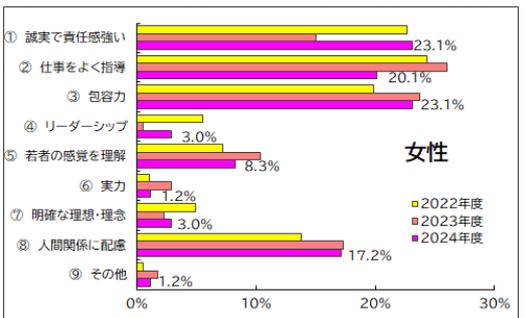
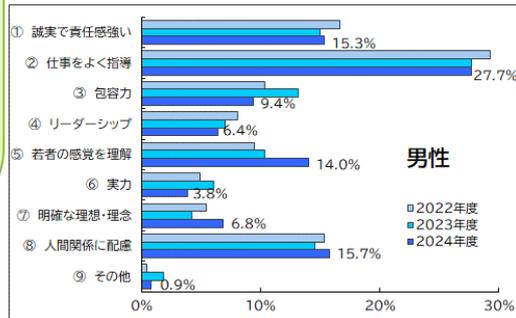
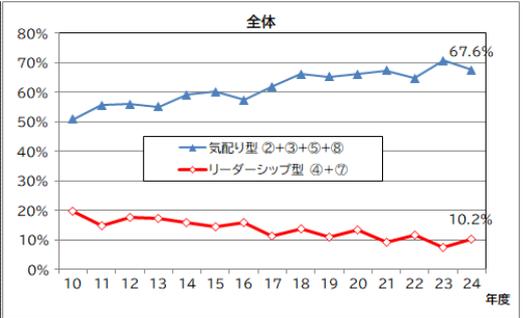
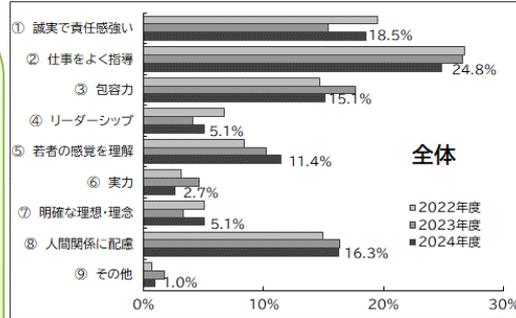
#### 4. あなたにとって「理想の上司」とはどんな人ですか

(選択肢)

- ① 誠実で責任感の強い人
- ② 仕事をよく指導してくれる人 ●
- ③ 包容力のある人 ●
- ④ リーダーシップのある人 ◇
- ⑤ 若者の感覚を理解できる人 ●
- ⑥ 実力のある人
- ⑦ 明確な理想・理念を持った人 ◇
- ⑧ 人間関係に配慮してくれる人 ●
- ⑨ その他

●…気配り型

◇…リーダーシップ型



#### 例年同様「気配り型」が人気

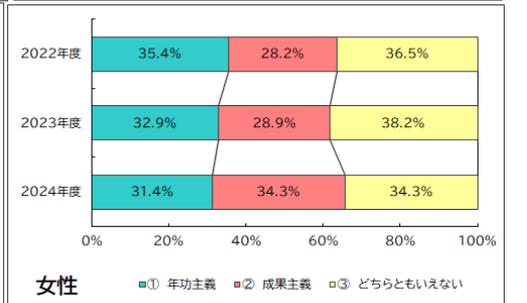
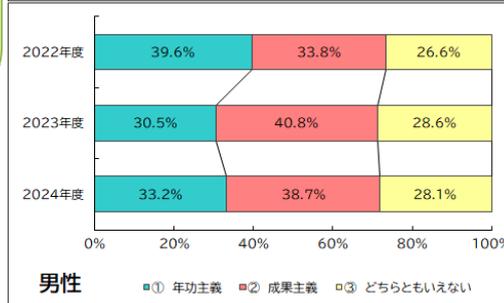
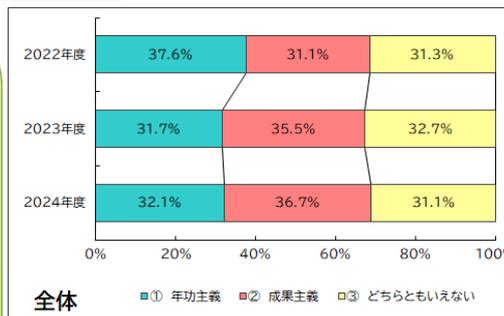
「理想の上司」のトップは、「②仕事をよく指導してくれる人」で24.8%（前年比1.8%増）、次いで「①誠実で責任感の強い人」が18.5%（同3.2%増）、「⑧人間関係に配慮してくれる人」が16.3%（同0.1%減）となった。男性の1位が「②仕事をよく指導してくれる人」（27.7%）であったのに対して、女性の1位は「①誠実で責任感の強い人」と「③包容力のある人」（いずれも23.1%）が同率であった。男性は職場での指導を重視するのに対して女性は人柄を重視する傾向にあるようだ。

気配り型※1の上司は67.6%と依然人気が高く、リーダーシップ型※2の上司は10.2%となった。

#### 5. 望ましいと思う昇給パターン

(選択肢)

- ① 仕事の達成度や成果が給料にあまり反映されないが、年齢や勤続年数に応じた昇給がある…(年功主義)
- ② 仕事の達成度や成果が給料に大きく反映されるが、年齢や勤続年数に応じた昇給はない…(成果主義)
- ③ どちらともいえない



※1 気配り型…「②仕事をよく指導してくれる人」「③包容力のある人」「⑤若者の感覚を理解できる人」「⑧人間関係に配慮してくれる人」の合計

※2 リーダーシップ型…「④リーダーシップのある人」「⑦明確な理想・理念を持った人」の合計

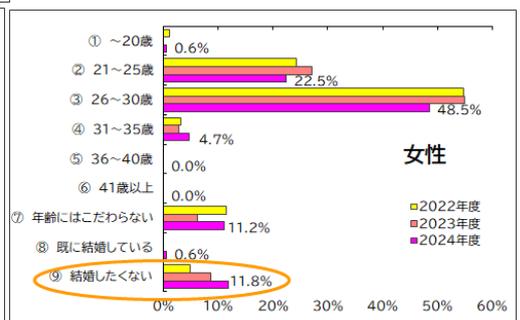
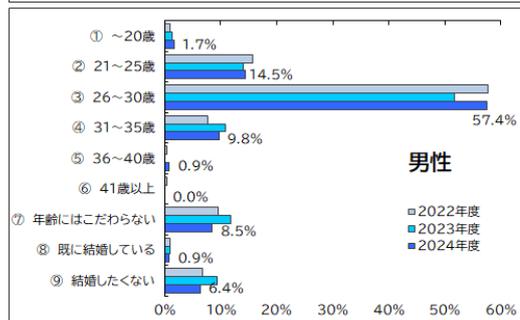
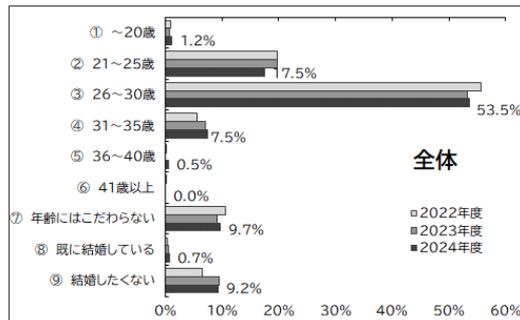
## 昨年に続き「成果主義」が「年功主義」を上回った

希望する昇給パターンは、「①年功主義」が 32.1%（前年比 0.4 ㊦増）、「②成果主義」が 36.7%（同 1.2 ㊦増）で、昨年に続いて「②成果主義」が「①年功主義」を上回った。「②成果主義」と回答した割合は 2 年連続で上昇し、過去最高となった。男女別にみると「②成果主義」と回答した割合は、男性で 38.7%、女性で 34.3%と男性の方が高かった。年齢にかかわらず、実績が評価され賃金に反映されることを望む若者は増えているようだ。

## 6. 結婚したい年齢

（選択肢）

- ① ~20歳
- ② 21~25歳
- ③ 26~30歳
- ④ 31~35歳
- ⑤ 36~40歳
- ⑥ 41歳以上
- ⑦ 年齢にはこだわらない
- ⑧ 既に結婚している
- ⑨ 結婚したくない



## 男女ともに「26~30歳」が最多

結婚希望年齢は、全体の1位が「③26~30歳」で 53.5%（前年比 0.3 ㊦増）、2位が「②21~25歳」で 17.5%（同 2.2 ㊦減）、3位が「⑦年齢にはこだわらない」で 9.7%（同 0.5 ㊦増）であった。

「⑨結婚したくない」と回答した割合は全体で 9.2%（同 0.3 ㊦減）であり、男女別にみると、男性 6.4%、女性 11.8%と女性の方が高かった。女性は3年連続で増加し、今回初めて1割を超えて過去最高となった。

平均結婚希望年齢<sup>※3</sup>は、男性が 27.6 歳、女性が 26.8 歳と前年とほぼ同水準となった。

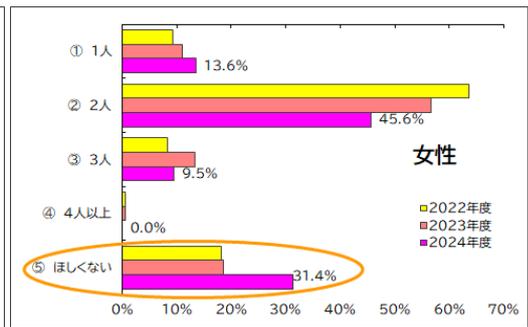
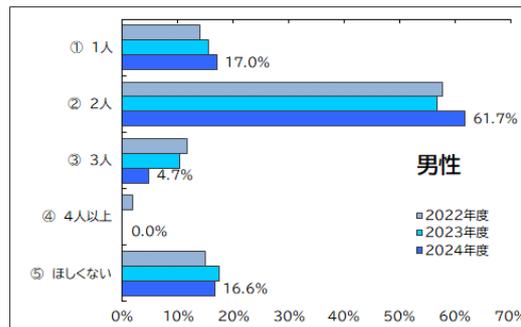
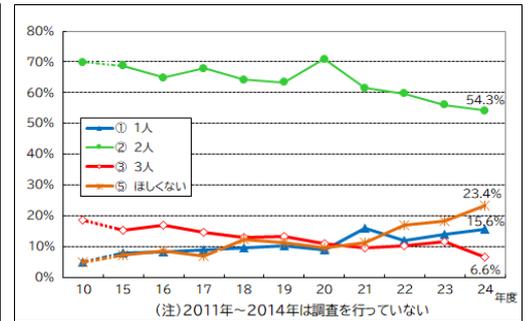
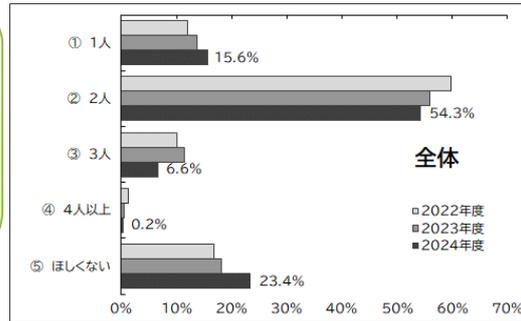
調査年度	全体	男性	女性
2007	26.1	26.8	25.4
2008	26.2	26.9	25.5
2009	26.4	27.1	25.6
2010	26.4	26.8	25.9
2015	26.6	27.1	25.8
2016	26.7	27.1	26.2
2017	26.9	27.4	26.3
2018	26.8	27.3	26.2
2019	26.6	27.1	26.1
2020	27.3	27.5	27.1
2021	26.6	27.1	26.1
2022	27.1	27.5	26.6
2023	27.1	27.6	26.6
2024	27.3	27.6	26.8

（注）2011年～2014年は調査を行っていません。

## 7. 子どもは何人ほしいか

(選択肢)

- ① 1人
- ② 2人
- ③ 3人
- ④ 4人以上
- ⑤ ほしくない



### 平均希望子ども数は1.45人で過去最少

希望する子どもの数は、「②2人」が54.3%（前年比1.7ポイント減）でトップ、次いで「⑤ほしくない」が23.4%（同5.2ポイント増）、「①1人」が15.6%（同1.8ポイント増）となり、「⑤ほしくない」と回答した割合は過去最高であった。

「⑤ほしくない」と回答した割合は男女差が大きく、男性16.6%に対して女性31.4%と、実に3割を超える女性が子どもをほしくないと考えている。「⑤ほしくない」と回答した女性の割合は4年連続で増加し、過去最高であった。

なお、全体の平均希望子ども数<sup>※4</sup>は5年連続で減少し1.45人と過去最少であった。

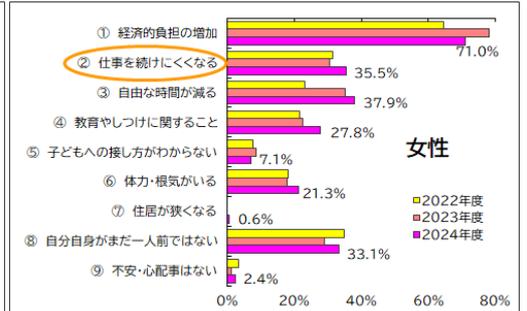
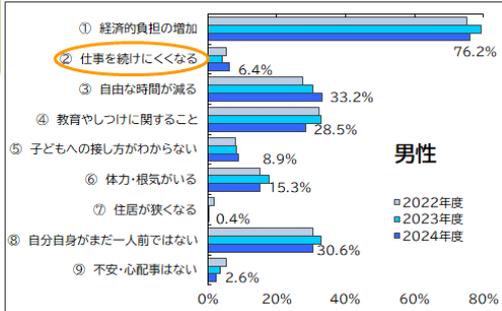
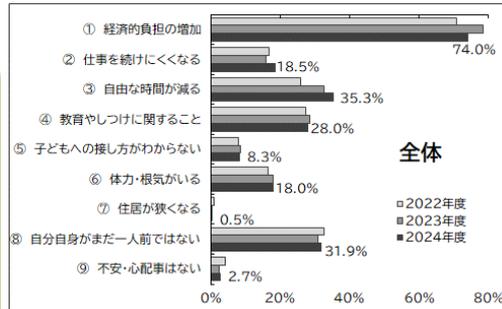
調査年度	全体	男性	女性
2007	2.06	2.05	2.06
2008	2.06	2.07	2.04
2009	2.03	2.01	2.05
2010	2.06	2.04	2.07
2015	1.94	1.92	1.98
2016	1.94	1.97	1.91
2017	1.94	1.92	1.97
2018	1.80	1.79	1.82
2019	1.84	1.84	1.83
2020	1.83	1.83	1.83
2021	1.74	1.71	1.77
2022	1.67	1.72	1.64
2023	1.62	1.60	1.66
2024	1.45	1.54	1.33

(注)2011年～2014年は調査を行っていない。

## 8. 子どもを持つことへの不安・心配事

(選択肢)

- ① 経済的負担の増加
- ② 仕事を続けにくくなる
- ③ 自由な時間が減る
- ④ 教育やしつけに関すること
- ⑤ 子どもへの接し方がわからない
- ⑥ 体力・根気がいる
- ⑦ 住居が狭くなる
- ⑧ 自分自身がまだ一人前ではない
- ⑨ 不安・心配事はない



トップは「経済的負担の増加」

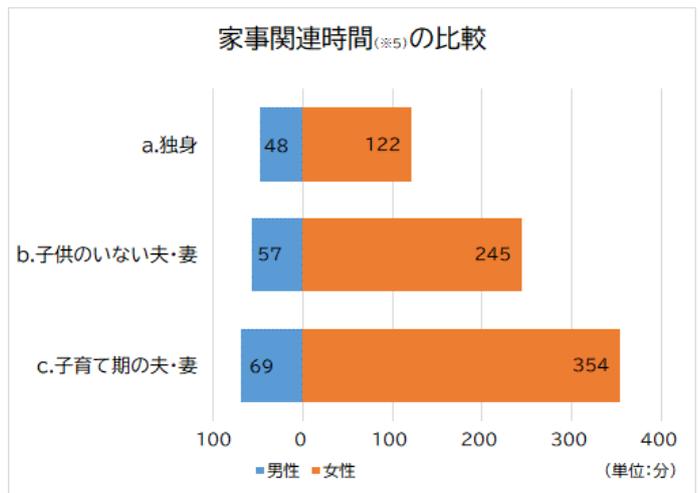
子どもを持つことへの不安・心配事について、最大3つまで選択してもらったところ、回答の多い順から「①経済的負担の増加」が74.0%（前年比4.5%増減）、「③自由な時間が減る」が35.3%（同2.6%増）、「⑧自分自身がまだ一人前ではない」が31.9%（同1.0%増）、「④教育やしつけに関すること」が28.0%（同0.6%減）となった。

回答者の4人に3人が、出産・育児による経済的負担の増加を不安・心配に感じている。最近では賃上げの動きが多くみられるものの、物価変動を考慮した実質賃金はマイナスが続いており、将来の資金計画が立てづらい状態が継続しているとみられる。

また、「②仕事を続けにくくなる」は例年男女差が大きい項目である。今年度も男性が6.4%（同2.2%増）であったのに対して、女性が35.5%（同4.9%増）とこれまでと同様の傾向がみられた。

今年度の調査においては、「結婚したくない」「子どもはほしくない」と回答した女性の割合がいずれも過去最高であった。結婚や子育てに関する経済面の不安に対しては、結婚に伴う新生活を経済的に支援する結婚新生活支援事業の実施や、児童手当の支給対象拡大など、一見すると国や自治体による支援が充実してきているようにも見えるが、それに逆行するような流れがみられるのはなぜだろうか。

ここで、総務省の社会生活基本調査（2021年）を用いて男女の家事関連時間<sup>※5</sup>をライフステージ



出典「令和3年社会生活基本調査」(総務省統計局)

ごとに比較してみる。a.独身→b.子どものいない夫婦→c.子育て期の夫婦 とライフステージが変化するとした場合、a→b では女性の家事関連時間が 123 分増加するのに対して、男性は 9 分の増加にとどまる。また、b→c では女性は 109 分増加するのに対して、男性は 12 分の増加にとどまる。つまり、女性は結婚すると、男性以上に家事・育児等の労働に自分の時間を取られてしまう。子どもを持つことへの不安・心配事として、男性に比べ多くの女性が「自由な時間が減る」「仕事を続けにくくなる」と回答する大きな理由がここにあるのではないだろうか。家事・育児等の負担の男女間の非対称性は、女性が結婚を忌避し子どもを持たない選択をすることの一因と言えるだろう。

家事・育児等の分担は、一概に家事関連時間を夫婦で半々にすればよいというものではなく、家庭内で相談してベストなバランスを探るものだろう。その際、家事分担における個人の選択や考え方にも伝統的な性別役割分業意識が影響している可能性があるため、時には無意識の思い込みに縛られていないか振り返ってみることも必要ではないだろうか。

(研究員 萩原 綾子)